

第 39 回

日本リンパ学会総会が

3 月 27 日(金)～29 日(日)に

東京ソラシティーカンファレンスセンターにて開催されます。

当院からは

血管外科センター長 今井崇裕 医師が

学術発表いたしますので、ご紹介します。

テーマ…産婦人科から見たリンパ学
～リンパ浮腫と免疫～

日本リンパ学会総会

第39回

会 期

平成 27 年

3月27日(金)
～29日(日)

会 場

ソラシティー
カンファレンスセンター

101-0062
東京都千代田区
神田駿河台4-6
(お茶の水)

会 頭

佐々木 寛

東京慈恵会医科大学
附属柏病院
産婦人科診療部長
(教授)

The 39th
Annual Meeting of
the Japanese Society of
Lymphology

市民公開講座 3月29日(日)

【事務局】東京慈恵会医科大学附属柏病院 産婦人科 事務局長 田部 宏

〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1 TEL:04-7164-1111(内線3520) / FAX:04-7163-5455

【運営事務局】株式会社SKアベックスプラン 〒104-0041 東京都中央区新富1-8-6 SSビル5階 TEL:03-3523-3722 / FAX:03-3523-3723

<http://www.39jsl.jp/>

「バランススコアカードを用いたリンパ浮腫診療の治療戦略」

今井 崇裕¹、田垣内 祐子²、竹中 美鈴²

¹ 西の京病院血管外科

² 西の京病院看護部

Strategy for Lymphedema Treatment with Balanced Scorecard

TAKAHIRO IMAI¹, YUKO TAGAITO², MISUZU TAKENAKA²

¹ Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

² Nursing Department, Nishinokyo Hospital

抄録

バランススコアカード(BSC)は、企業のビジョンや戦略実行に当たり、「財務」「顧客」「業務プロセス」「成長と学習」の4つの視点から、可視化して業務を評価・遂行する経営ツールである。さまざまな目標を設定しても、達成度を示す業績評価指標と基準がなければ目標を達成が出来ない。具体的なゴールを設定し、目標達成に向けて明確な行動指標を示すのに、BSCは非常に有用な手法である。リンパ浮腫診療の醍醐味は、医師が患者の現状を把握して、多職種と連携をとり治療計画が円滑に進むようにコーディネートすることである。しかしながら多職種に係るがゆえに、各分野の治療到達度がわかりにくい点、患者の状態が変化した場合に素早く連携を取ることが困難な点など問題もある。今回BSCを用いて、リンパ浮腫患者の治療計画を策定した。当院は2008年より血管外科を開設し、さまざまな脈管疾患の診察を行っている。2014年1月から11月までの11か月間に外来を受診した乳癌・婦人科癌術後などの続発性四肢リンパ浮腫の患者は39名(男性1名、女性38名)、平均年齢63.3歳(23-90歳)であった。上肢3例、下肢36例。リンパ浮腫ISL分類でI期1例、II期36例、II期晩期2例。治療はクリニカルパスに基づき、病期に応じた初期管理方法を選択し、多職種(医師・看護師・理学療法士)で治療に当たっている。BSCの4つの視点を「医師」「看護師」「理学療法士」「地域」に例え、「地域」は院外セラピストや癌など原疾患の診療科とした。複合的理学療法の実施、弾性着衣の指導、心理的苦悩への対処など、各分野で患者の治療目標と到達度が分かるように一枚のシートに記入することとした。リンパ浮腫の治療は患者を中心として、医師、外来・病棟の看護師、理学療法士、地域診療院のセラピスト、癌診療科など多職種の参加を必要とする。各分野の担当者と連携をとり、情報を共有する手段として、BCSを用いることでバランスの取れた治療の実践に役立った。リンパ浮腫患者に対して、患者を中心とした治療体制を構築するために、BSCを利用した取り組みを紹介した。